

福島県西会津町教育委員会

【総人口】5,376人（令和7年3月1日現在）

【自治体 関連URL】<https://www.town.nishiaizu.Fukushima.jp/>【主担当部局】西会津町教育委員会学校教育課
（公立小学校担当）【主な関係部局】西会津町福祉介護課
（認定こども園担当）

	幼稚園			保育所		幼保連携型 地域裁量型		小学校		
	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	国立	公立	私立
施設数				1					1	
園児・ 児童数				116					192	

事業実施地域・
協力園校

【実施地域】

福島県耶麻郡西会津町

【協力園校】

幼：公立認定こども園 1 園

小：公立小学校 1 校

架け橋期の
カリキュラム開発
会議

【会議委員人数】

13名

【開催数】

計9回

【委員属性】

大学教授1名、公立認定こども園長1名、公立小学校長1名、公立中学校長1名、公立認定こども園教職員3名、公立小学校教職員2名、公立中学校教職員1名、公立認定こども園保護者1名、公立小学校保護者1名、町家庭教育相談室職員1名

架け橋期の
コーディネー
ター等

【配置人数】

1名

【経歴】

- ・元公立小学校長
- ・幼児教育保育アドバイザー

架け橋期の
カリキュラム

【開発主体】

公立小学校区

（1公立保育所型認定こども園、1公立小学校）

福島県西会津町教育委員会

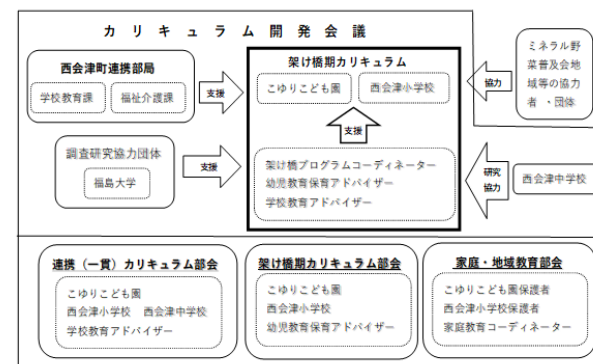
1、事業実施の背景や目的

子どもたちの発達段階に合わせた継続的な学びの支援が必要であるという認識があり、特に、幼児期から児童期への架け橋期における子供達の不安や戸惑いを軽減し、スムーズな接続を実現することが重要な課題である。また、幼児教育と小学校教育の現場で、教育内容や方法にギャップがあり、子供達が戸惑うケースも見られた。そこで、本事業を通して次のことを目指した。

- ・幼児期から児童期への発達を見通し、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、こども園と小学校の関係者が連携を深める。
- ・保小の連携体制を強化し、子どもたちが安心して学び続けられる環境を整備する。
- ・地域資源を活用した教育プログラムを開発し、子どもたちの地域への愛着や学びへの意欲を高める。
- ・保育士と小学校教員が直接園児・児童を指導する中で連携を深め、地域の良さを生かした学習を工夫し、食育指導にもつなげる。
- ・架け橋期のこども園の5歳児と小学校1年生がスムーズに連動するように、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの充実を図る。

2、事業実施体制や取り組み内容

- ・西会津町の特産であるミネラル野菜栽培を小学校1年生の生活科に導入し、5歳児も参加して、協働的な学習の機会を設け、保育士と小学校教員が連携して実践した。
- ・架け橋期のこども園の5歳児と小学校1年生がスムーズに連動するように、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの見直しと一体的なカリキュラムを作成した。



3、事業を実施する過程で生じた課題とその解決方法

○情報共有と連携の強化

- ・こども園と小学校両方の状況を理解している幼児教育保育アドバイザーが、調整や助言にあたった。

○カリキュラムの見直しと改善

- ・架け橋プログラムコーディネーターを配置し、子供達の発達段階や興味関心に合わせた活動内容に見直し、教材や指導方法の改善を行った。

4、事業の成果と今後の課題

○成果

- ・教育委員会を中心に、福祉介護課など、関連する部局が連携して体制づくりを進め、情報共有や意見交換が活発に行われるようになった。
- ・カリキュラムについての協議や合同研修会、相互保育・授業参観などを通して、保育士と小学校教員の相互理解や連携を深めることができた。
- ・子供達は、架け橋期における不安や戸惑いが軽減しスムーズに小学校生活に適応できるようになった。

○課題

- ・保小連携体制をさらに強化し、カリキュラムの実践と検証、見直しを確実に行うことと、家庭・地域の理解と協力を促進することが大切である。

福島県西会津町教育委員会

保小中のみならず家庭・地域と連携を強化して、西会津っ子を育成する。

西会津町特産であるミネラル野菜とのかかわりを、保小中一貫した取組の柱とした。

ICTとのかかわりや読解力の向上についても、発達段階に応じた目標を表記した。

家庭・地域の子供達とのかかわり方について、具体的に表記した。

保小中&家庭・地域が力を合わせて育てよう「挑む心とやり抜く力で、未来を創る西会津っ子」

成長段階	乳児期	幼児期初期	幼児期後期	学童期	移行期	思春期
			年少 年中 年長	小1 小2 小3 小4 小5	小6 中1 中2 中3	
発達段階に応じた子どもの姿	①ふれあいに喜び、明るく思いやりがあり、自分で考え進んで行動できる ②のびのび育ち生活リズムが芽生える ③気持ちの通いやすさを感じる ④身の回りのものに好奇心が育つ ⑤体を思うように動かせる ⑥身の回りのことを自分でしようとし、したいこと、してほしいことを言葉で伝えたりできる ⑦子ども同士の関わりを持とうとする ⑧全身を上手に使いながら活発に遊ぶ ⑨1日の生活の流れを見通し進んで行うことができる ⑩集団的な遊びや協同的な活動ができる ⑪身近な環境に積極的に関わり、関わり方や遊び方が分かる	①自分の心と体を大切にしながら行動できる ②自分と他者の違いを尊重し行動できる ③相手の思いや気持ちを察して行動できる ④してよいことと悪いことを区別して行動できる ⑤周りの人たちに親しく接することができる ⑥様々なものについて考え、気づき、使うことができる ⑦自然や命の不思議・尊さに気づき大切にできる ⑧数量や図形・模様や文字などに必要感を持ち使える ⑨言葉により身近な人と心を通わせることができる ⑩感動したことなどイメージを膨らませ楽しめ表現できる ⑪様々な発想があることに気づき新しいイメージを作れる	①心身の健康のために規則正しく生活できる ②するべきことを粘り強く行うことができる ③相手のことを思いやり仲良く生活できる ④よいことを進んで行うことができる ⑤明るく自分から進んであいさつできる ⑥自ら課題を見つけ「こうしたらどうかな?」と考えられる ⑦生きることの喜びを大切にできる ⑧数量や図形・文字などに関心をもち意欲的に学習できる ⑨場面に応じた言葉や動作でコミュニケーションをとれる ⑩様々な発想があることに気づき新しいイメージを作れる	①粘り強く強い意志を身に付けた、気づき、考え、実行できる児童 ②意欲的に、粘り強く、学習に向かうことができる ③強く優しい心をもっている ④健康で安全な生活を目指して行動できる ⑤地域を知り地域に誇りをもつことができる	①自律する力を身に付けた、気づき、考え、実行できる生徒 ②失敗を恐れず、夢に向かって前進できる ③心を動かす出会いを大切に ④自分を磨くことができる ⑤自分自身を認めて、根気強く努力できる	
子ども園・小・中学校	「西会津町特産ミネラル野菜とのかかわりながら成長していく西会津っ子」 ①絵本の読み聞かせやごっこ遊びなどを通していろいろな野菜を知り興味を持つようにします ②散歩や外遊びを通して、自然に親しみ、土や植物に触れることが好きになるようにします ③給食などでミネラル野菜を食べ、野菜が好きになるようにします ④ミネラル野菜栽培をしながら、様々な交流を行います ⑤栽培活動（生活科）→主に③④⑥⑦⑧の育成 ⑥ミネラル野菜栽培をしながら、様々な交流を行います ⑦栽培活動（生活科）→主に③④⑥⑦⑧の育成 ⑧ミネラル野菜栽培をしながら、様々な交流を行います ⑨栽培活動（生活科）→主に③④⑥⑦⑧の育成 ⑩ミネラル野菜栽培をしながら、様々な交流を行います ⑪栽培活動（生活科）→主に③④⑥⑦⑧の育成					
家庭（上）・地域（下）	①ICTとのかかわり ②子どもたちの時間を豊かにするためのICT活用 ③ICT基本の習得 ④ICTを身近に ⑤ICTを活用して ⑥ICTの書き換え ⑦読解力の向上 ⑧絵本や紙芝居などの読み聞かせ ⑨いろいろな言葉の理解と使用 ⑩文章の基本的な理解 ⑪基礎的・汎用的読解力（リーディングスキル）の育成 ⑫読解力から表現力へ					
町	①子育て広場「おいでおいで」（こども園内子育て支援室） ②子育てコミュニティ施設「キッズランド芝草」（旧芝草保育所） ③育児相談（こども園・子育て支援センター） ④放課後児童クラブ「ひだまり子どもクラブ」（こども園内） ⑤放課後子ども教室「西小わくわくクラブ」（地域学校協働本部事業） ⑥家庭教育相談室「こころのオアシス」（西会津小・地域学校協働本部事業） ⑦子ども研習塾 ⑧学習支援事業（地域学校協働本部事業） ⑨西会津かるた大会（小1～一般） ⑩学校応援・地域交流事業（地域学校協働本部事業）					

ミネラル野菜栽培を小学校1年生の生活科に導入し、こども園5歳児と一緒に、協働的な学習の機会を設け、実践することにした。

保育士と小学校教員が直接園児・児童を指導する中で連携を深め、地域の良さを生かした学習を工夫する。

町の子育て支援の内容について表記した。

発達段階に応じた子どもの姿を表記した。特に、架け橋期については、色網かけで強調し、育てほしい10の姿を表記した。

食育にもつなげていくようにした。

令和4年度の第1回～第3回カリキュラム開発会議において協議し、作成した。全体の主旨や流れがわかるものということで、カリキュラム概要版と呼ぶようにした。

西会津町架け橋期のカリキュラム開発会議作成

福島県西会津町教育委員会

育てたい力を「知識及び技能（の基礎）」「思考力、判断力、表現力等（の基礎）」「学びに向かう力、人間性等」とした。

カリキュラムの期間を2～4ヶ月に区切り、それぞれの目標を設定した。

大切にしたい視点について、具体的な内容の後ろに番号を入れ、育てたい10の姿との対応が分かるようにした。

こども園と小学校
合同でのミネラル
野菜栽培活動に
ついて表記した。

こども園と小学校
の連携した活動
について表記した。

地域・家庭との連携について表記した。

令和5年度の第4回～第6回カリキュラム開発会議において協議し、作成した。福島大学 原野明子 教授の指導助言を受けながら作成した。



架け橋期における繋ぎをスムーズにするために、こども園のアプローチカリキュラム（8月）から小学校のスタートカリキュラム（7月）までを1枚にまとめた。

育ってほしい10
の姿は縦書きで
表記し、目立つよ
うにした。

福島県西会津町教育委員会



カリキュラムをまとめたリーフレットを、令和6年度の第7回～第8回カリキュラム開発会議において協議し、作成した。二次元コード（QRコード）から架け橋プログラム公式サイトにつながるようにした。令和7年度から家庭等に配布し活用する。

【カリキュラムの実践を通した子供達の変容】

畑や自然と触れ合う野外活動を行うことで、今までより深まりのある園児や児童の発言が見られるようになった。また、交流の機会が増えたことで、小学校生活に対する園児の期待感や安心感が高まっている。小学1年生も「今年は自分たちが教えるてあげる番だ」と意欲的に関わったり、自分のやるべきことを自覚して行動できるようになってきている。

【今後のカリキュラム実践推進と見直し】

保小中連携推進協議会（仮称）を中心にカリキュラムを実践・検証するとともに、こども園や小中学校の実態に合わせて、年度末にカリキュラムの見直しを行う。

※保小中連携推進協議会（仮称）はカリキュラム開発会議の後継組織